

## STEP 3

## 防除の実施

被害木が発見された場合の防除の具体的な作業方法等を解説します。

### ア. 薬剤（農薬）

現時点で本種に使用可能な農薬には、幼虫を殺虫するものと成虫を殺虫するものの2種類があります。農薬取締法により、使用する作物（樹種）毎に対象害虫として本種またはカミキリムシ類が登録されているものしか使用できないため、使用にあたっては必ず登録内容（※）を確認してください。

なお、次表は農薬登録情報提供システムにおいて、「クビアカツヤカミキリ」、「クビアカツヤカミキリ（さくら）」、「クビアカツヤカミキリ幼虫」及び「クビアカツヤカミキリ（成虫）」で検索した結果です。その他のカミキリムシ類に使用したい場合は、薬剤名で検索すると、使用できる作物（樹種）が記載されている場合があります。

※農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp>

クビアカツヤカミキリに使用可能な農薬一覧（1）（2026年3月現在）

<フラス排出孔に注入する農薬>

農薬名 (農薬の種類)	作物名	希釈倍数	仕様液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	対象	同一成分を含む農薬の総使用回数
園芸用キンチョールE (ペルメトリンエアゾル)	さくら	-	-	発生初期	6回以内	【専用ノズルつけかえ方式】容器のボタンを引き抜き、専用ノズルにつけかえ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。	幼虫	6回以内
マツグリーン液剤2 (アセタミプリド液剤)	さくら	50倍		発生初期	5回以内	食入孔に注入	幼虫	5回以内(樹幹注入は1回以内)
アクセルフロアブル (メタルミゾン水和剤)	さくら	100倍	-	-	6回以内	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫	6回以内

<樹体に穴をあけて注入する農薬>

農薬名 (農薬の種類)	作物名	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	対象	同一成分を含む農薬の総使用回数
アトラック液剤 (チアトキシサム液剤)	さくら	-	胸高直径(樹幹部)、6~10cm 30ml、11~15cm 60ml、16~20cm 90ml、21~25cm 120ml、26~30cm 180ml、30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに30~60mlを増量する	幼虫発生前~ 幼虫発生期	3回以内	樹幹注入	幼虫	3回以内
ワッドスター (ジノテフラン液剤)	さくら	-	注入部直径 6cm~10cm : 8~12ml、10cm~20cm : 12~24ml、20cm~30cm : 24~36ml、30cm~40cm : 36~48ml、40cm~50cm : 48~60ml、50cm~60cm : 60~72ml、以降、直径が10cm増す毎に12mlを追加する	新葉展開後~ 落葉前まで	3回以内	樹幹注入	幼虫	5回以内
ワバイブ (四マメクチン安息香酸塩液剤)	さくら	-	樹幹部の胸高直径が6~10cmの場合は10~30ml、11~15cmの場合は20~60ml、16~20cmの場合は30~90ml、21~25cmの場合は40~120ml、26~30cmの場合は50~150ml、30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに10~30mlを増量する	発生前~発生初期	1回	樹幹部に注入孔をあけ、注入器の先端を押し込み樹幹注入する。	幼虫	1回

クビアカツヤカミキリに使用可能な農薬一覧（2）（2026年3月現在）

<樹体に散布する農薬(1)>

農薬名 (農薬の種類)	作物名	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	対象	同一成分を含む農薬の総使用回数	
住化スミチオン乳剤 ホクコーススミチオン乳剤 日農スミチオン乳剤 田ケイイスミチオン乳剤 アリスミチオン乳剤 一農スミチオン乳剤 理研スミチオン乳剤 緑化用スミチオン 家庭園芸用スミチオン乳剤 協友スミチオン乳剤 ホクサンスミチオン乳剤 (MEP乳剤)	もも	1000倍	200～700L/10a	成虫発生初期 但し、収穫3日前まで	6回以内	散布	成虫	6回以内(樹幹処理は1回以内)	
	うめ	1000倍	200～700L/10a	成虫発生初期 但し、収穫14日前まで	2回以内	散布	成虫	2回以内	
	さくら	1000倍	200～700L/10a	成虫発生初期	6回以内	散布	成虫	6回以内	
カルホス乳剤 (イソキサチオン乳剤)	さくら	1000倍	200～700L/10a	成虫発生初期	6回以内	散布	成虫	6回以内	
オリオン水和剤40 (アラニカルブ水和剤)	もも	1000倍	200～700L/10a	成虫発生期 但し、収穫14日前まで	2回以内	散布	成虫	2回以内	
	ネクタリン	1000倍	200～700L/10a	成虫発生期 但し、収穫21日前まで	2回以内	散布	成虫	2回以内	
	小粒核果類 (うめを除く)	1000倍	200～700L/10a	成虫発生期 但し、収穫7日前まで	3回以内	散布	成虫	3回以内	
	うめ	1000倍	200～700L/10a	成虫発生期 但し、収穫7日前まで	3回以内	散布	成虫	3回以内	
	さくら	1000倍	200～700L/10a	成虫発生期	5回以内	散布	成虫	5回以内	
アクタラ顆粒水溶剤 (チアメキサム水溶剤)	もも	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	成虫	3回以内	
	ネクタリン	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	成虫	3回以内	
	おうとう	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	成虫	2回以内	
	小粒核果類 (うめを除く)	2000倍	200～700L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	成虫	2回以内	
	うめ	2000倍	200～700L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	成虫	2回以内	
ダントツ水溶剤 協友ダントツ水溶剤 (クロチアエジン水溶剤)	もも	2000倍	200～700L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	成虫	3回以内	
	うめ	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	成虫	3回以内	
	すもも	2000倍	200～700L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	成虫	3回以内	
	さくら	2000倍	200～700L/10a	成虫発生初期	5回以内	散布	成虫	6回以内	
マツグリーン液剤2 (アセタミプリド液剤)	さくら	200倍	200～700L/10a	成虫発生初期	5回以内	散布	成虫	5回以内(樹幹注入は1回以内)	
		20倍	20～70L/10a	成虫発生初期	5回以内	樹幹散布	成虫	5回以内(樹幹注入は1回以内)	
アクセルフロアブル (メタフルミゾン水和剤)	もも類	1000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	成虫	4回以内(樹幹散布は2回以内、散布は2回以内)	
		100～200倍	5～200L/10a	収穫前日まで	2回以内	樹幹散布	成虫		
	すもも	1000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	成虫		
		100～200倍	5～200L/10a	収穫前日まで	2回以内	樹幹散布	成虫		
	うめ	1000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	成虫		3回以内
	さくら	1000倍	200～700L/10a	成虫発生直前～成虫発生期	6回以内	散布	成虫		6回以内
200倍		5～200L/10a	成虫発生直前～成虫発生期	6回以内	主幹から株元に散布	成虫	6回以内		

クビアカツヤカミキリに使用可能な農薬一覧（3）（2026年3月現在）

<樹体に散布する農薬(2)>

農薬名 (農薬の種類)	作物名	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	対象	同一成分を含む農薬の総使用回数
モスピラン顆粒水溶剤 日農モスピラン顆粒水溶剤 (アセタミプリド水溶剤)	もも	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	成虫	3回以内
	小粒核果類 (うめ、すももを除く)	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	成虫	3回以内
	うめ	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	成虫	3回以内
	すもも	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	成虫	3回以内
	おうとう	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	1回	散布	成虫	1回
	さくら	2000倍	200～700L/10a	発生初期	5回以内	散布	成虫	5回以内(樹幹注入は1回以内)
トルネードエースDF MICトルネードエースDF クミアイトルネードエースDF 丸和トルネードエースDF ファイントリムDF (インドキサカルブ水和剤)	さくら	1000倍	200～500L/10a	成虫発生初期	4回以内	散布	成虫	4回以内
トップン液剤 (シクラニプロール液剤)	もも	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	成虫	2回以内
	小粒核果類	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	成虫	2回以内
	おうとう	2000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	成虫	2回以内
ベニカXネクストスプレー (還元澱粉糖化物・クロチアニジン・ピリダリル・ペルメトリン・マンデストロピン水和剤)	さくら	原液	-	成虫発生初期	6回以内	散布	成虫	6回以内
ダブルトリガー液剤 (シクラニプロール液剤)	さくら	2000倍	200～700L/10a	発生初期	2回以内	散布	成虫	6回以内
日農ハチハチフロアブル ハチハチフロアブル (トルフェンピラド水和剤)	もも	1000倍～2000倍	200～700L/10a	成虫発生期 但し、収穫前日まで	2回以内	散布	成虫	2回以内
ネクタリン								
ベニカ水溶剤 (クロチアニジン水溶剤)	もも	2000倍	200～700ml/m <sup>2</sup>	収穫7日前まで	3回以内	散布	成虫	3回以内
	うめ	2000倍	200～700ml/m <sup>2</sup>	収穫前日まで	3回以内	散布	成虫	3回以内
	さくら	2000倍	200～700ml/m <sup>2</sup>	成虫発生初期	5回以内	散布	成虫	6回以内
アグロスリン水和剤 クミアアグロスリン水和剤 日農アグロスリン水和剤 (シペルメトリン水和剤)	もも	1000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	成虫	5回以内
	おうとう	1000倍	200～700L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	成虫	2回以内
	すもも	1000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	成虫	2回以内
	ネクタリン	1000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	成虫	2回以内
	さくら	1000倍	200～700L/10a	成虫発生初期	6回以内	散布	成虫	6回以内
バダシSG水溶剤 (カルタップ水溶剤)	もも	1500倍	200～700L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	成虫	3回以内
	ネクタリン	1500倍	200～700L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	成虫	3回以内
	すもも	1500倍	200～700L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	成虫	3回以内
	さくら	1500倍	200～700L/10a	成虫発生期	3回以内	散布	成虫	3回以内

クビアカツヤカミキリに使用可能な農薬一覧（4）（2026年3月現在）

<樹体に散布する農薬(3)>

農薬名 (農薬の種類)	作物名	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	対象	同一成分を含む農薬の総使用回数
ケムシジェット (クロラントラニプロール・ ピフェントリンエアゾル)	さくら(※)	-	-	-	6回以内	噴霧液が均一に付着するように50cm以上離れた所から数回断続して噴射する。	成虫	6回以内
ロビンフッド (フェンプロパトリンエアゾル)	さくら(※)	-	-	成虫発生初期	6回以内	噴射	成虫	6回以内
花木用ハンドスプレー (ペルメトリン液剤)	さくら(※)	原液	-	発生初期	6回以内	希釈せずそのまま散布する。	成虫	6回以内

<伐倒木・枯損木をくん蒸する農薬>

農薬名 (農薬の種類)	作物名	希釈倍数	くん蒸時間	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	対象	同一成分を含む農薬の総使用回数
キルバー40 (カーバマナトリウム塩液剤)	もも (伐倒木)	被覆内容積1m <sup>3</sup> 当り原液750～ 1500ml	14日間	成虫羽化脱出前	1回	加害された伐倒木を集積したものまたは枯損木に、所定薬量を散布し、直ちにビニールシート等で密閉し所定期間くん蒸する。	幼虫	1回
	もも (枯損木)							
	うめ (伐倒木)							
	うめ (枯損木)							
	すもも (伐倒木)							
	すもも (枯損木)							
	さくら (伐倒木)							
さくら (枯損木)								
ヤシマNCS (カーバム剤)	うめ (伐倒木)	被覆内容積1m <sup>3</sup> 当り原液1.0L	14日以上	-	1回	加害された伐倒木を配置し本剤を散布し、直ちにビニール等で密閉し、くん蒸する。	幼虫	1回
	さくら (伐倒木)							
	すもも (伐倒木)							
	もも (伐倒木)							
NCS (カーバム剤)	うめ (伐倒木)	被覆内容積1m <sup>3</sup> 当り原液1.0L	14日以上	-	1回	加害された伐倒木を配置し本剤を散布し、直ちにビニール等で密閉し、くん蒸する。	幼虫	1回
	さくら (伐倒木)							
	すもも (伐倒木)							
	もも (伐倒木)							

## 【薬剤による幼虫の防除①】 排糞孔に注入するエアゾール式タイプ

フラスの出ている穴（排糞孔）の中に薬剤を注入し、穴の中にいる幼虫を駆除します。1本の木に対して排糞孔の数が5箇所未満の、被害が小さい場合の防除法として効果的です。

### 【使用時期】

幼虫の活動期（概ね4月～10月）

### 【使用道具】

千枚通し（針金）、ブラシ、カラーピン、ゴーグル、マスク、ゴム手袋

### 【使用方法・手順】

#### ① フラスの出ている排糞孔を探す

フラスの出ている箇所をブラシで取り除きながら、排糞孔を探し出します。排糞孔が見つからない場合は、樹皮を叩いた音の違い（坑道の有無で音がかわります）や、フラスを全て取り除いて、数日後に新たなフラスが排出されていれば、それを手掛かりに見つけ出せることがあります。また、幹から離れた地面にフラスが見られる場合には、その直上の枝に排糞孔がある可能性が高いと考えられます。

#### ② 排糞孔の中のフラスを掻き出す

排糞孔に詰まっているフラスを、千枚通しや針金などを使って掻き出します。また、穴がどの方向に延びているかを確認します。

#### ③ ノズルを排糞孔に差し込み、薬剤を注入する

排糞孔にノズルを差し込んで薬剤を注入します。その際、ノズルの目詰まりを防ぐため、薬剤を噴射しながら排糞孔に注入します。

#### ④ 薬剤が逆流して溢れるまで注入する

薬剤が坑道内に満ちて、排糞孔から逆流するまで注入し続けます。注入後には経過観察が行えるよう排糞孔の近くに目印となるピンを刺しておきます。

#### ⑤ フラスを除去しその後の経過観察に備える

注入後の経過観察を容易にするため、溜まったフラスは取り除くか踏みつぶします。概ね1週間後に、薬剤を注入した孔からフラスが出ていないかを確認し、もしフラスが見つければ駆除ができていないため、再び薬剤注入を行います。この際、農薬ごとに定められた使用回数を守って下さい。また、幼虫は一時的にフラスを出さないこともあるため、数週間は点検する必要があります。



## 【薬剤による幼虫の防除②】 樹幹に注入するタイプ

薬剤を樹幹に注入することで樹全体に薬剤が染み渡り、幼虫が薬剤を含んだ木質部を食べることで死亡します。薬剤は注入した穴から上に吸い上げられるため、穴の下側には行き渡りません。よって、できるだけ地際に施用するのがポイントです。

### 【使用時期】

幼虫の活動期内（概ね4月～5月、8月～9月頃）

### 【使用道具】

巻尺、電動ドリル、薬剤注入器、樹木用の傷口癒合剤、ゴーグル、マスク、ゴム手袋

### 【使用方法・手順】（例：ウッドスターでの参考例）

#### ① 穴をあける位置を決める

穴は10cm間隔で1つあけるため、10cm間隔に印をつけたテープや巻尺を幹に巻いて位置を決めます（写真①は印をつけたテープを使用）。

#### ② 電動ドリルで穴をあける

10cm間隔で穴をあけます。直径7mmか10mmのドリルを使い、斜め下方向約45°で6～7cmの深さにあけます。樹皮下の心材（白い部分）が出たらドリルを抜きます。この際、腐朽部分は薬液が浸透しにくいいため避けてください。

2回目以降は、前回の穴と位置をずらします。



左：腐朽部の木くず 右：正常な心材の木くず

#### ③ 穴は上下にずらしてあける

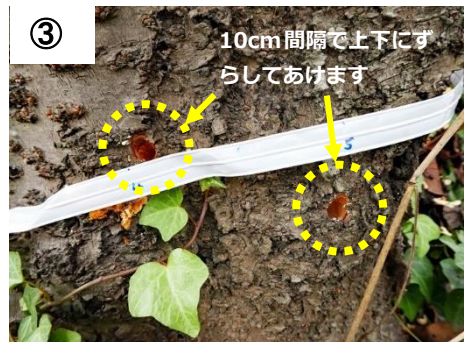
穴は横一列ではなく、上下交互になるようにあけます。樹木のダメージ軽減のためです。

#### ④ 薬剤を注入する

注入器で1穴あたり4mlの薬剤を注入します。なお、容器を穴に装着して薬剤を浸透させるタイプもあります。

#### ⑤ 穴を塞ぐ

薬剤が樹体内に浸透したことを確認後、樹木用癒合剤（カットパスター等）で塞ぎます。量は指で丸めたビ一玉大が目安です。



## 【薬剤による成虫の防除】 樹に散布するタイプ

成虫の発生時期に農薬を樹に散布して成虫を駆除します。特に初めて使用する際には、農薬を取り扱う行政関係機関の指導を受けることが望めます。

ゴム手袋、ゴーグル、マスク、防除衣（雨合羽など）、バケツ、噴霧器を用意します。

### 【使用時期】

成虫の発生期（概ね6月～8月頃）

### 【使用方法】

#### ① 薬液を調整する

農薬ごとに定められた希釈倍数に薬液を調整します。

#### ② 農薬を樹に散布する

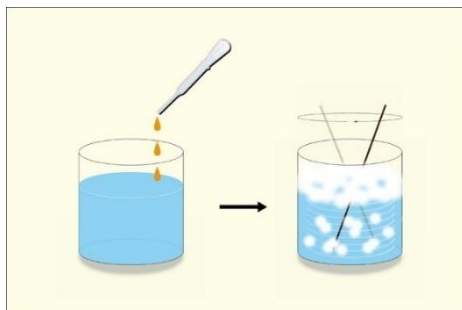
ゴム手袋、ゴーグル、マスク、防除衣を着用し、希釈した農薬を樹木に丁寧に散布します。散布量、回数は農薬の各種類の基準に従ってください。

### <散布する上での注意>

○道路や公園等で使用する場合には、散布中および散布後（少なくとも散布当日）に、子供や散布に関係のない人が散布区域に立ち入らないよう、縄囲いや立札などをするなどして、人畜に被害を及ぼさないよう十分に注意を払う必要があります。

○樹木散布の農薬は害虫から樹木を守る反面、人体への影響が課題となっており、特に成長過程にある子供への影響は大人よりも大きいとされています。東京都では樹木散布の指針となる『化学物質の子どもガイドライン【殺虫剤樹木散布編】』を公表しているので、参考にして下さい。

<https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/chemical/chemical/kids/index.html>



農薬を調整する  
(農薬毎に定める希釈倍数を守る)



(防除服等を着用する)